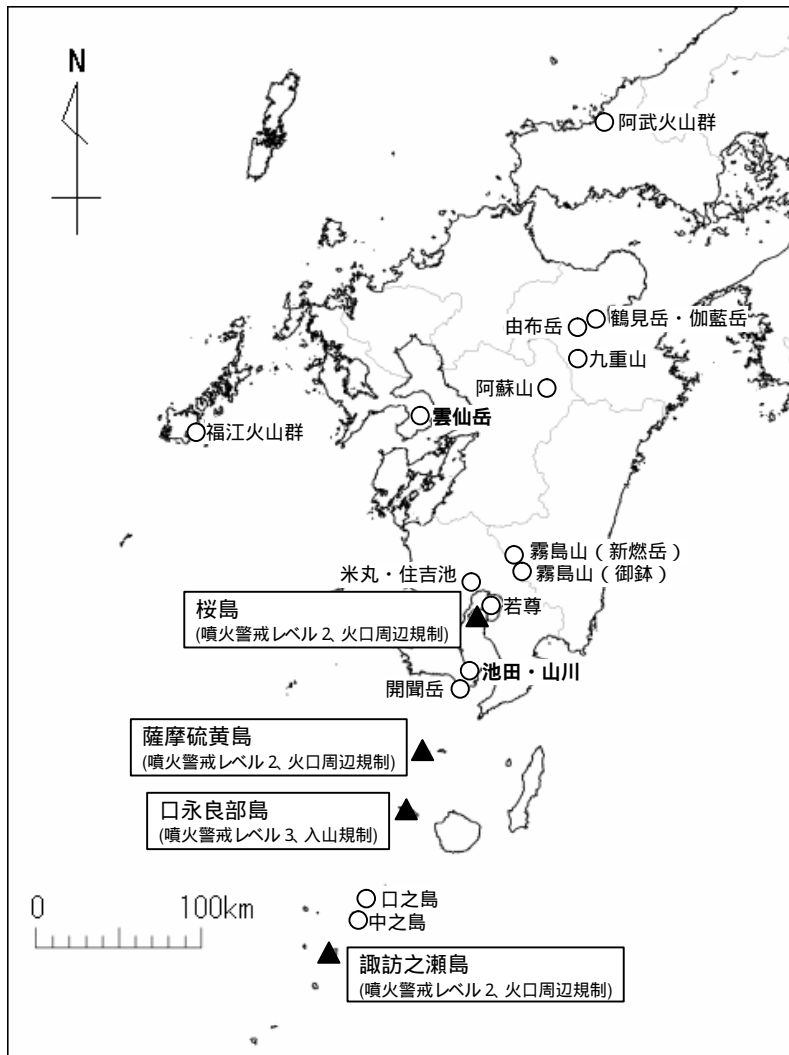


## 管内月間火山概況 (平成 21 年 1 月)

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター

## 噴火警報及び噴火予報の発表状況 (1 月 31 日現在)

- 火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制) : 口永良部島
- 火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制) : 桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
- 噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常) : 九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山 (新燃岳)、霧島山 (御鉢)
- 噴火予報 (平常) : 阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



## 凡例

▲ : 噴火警報発表中の火山      ○ : その他の火山

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況(平成 21 年 2 月分)は平成 21 年 3 月 6 日に発表予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」を使用しています(承認番号:平 20 業使、第 385 号)。

## 各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

### 九重山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

### 阿蘇山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

中岳第一火口では、2008年12月27日に観測された南側火口壁の噴気孔からの火炎現象は、1月に入っても火口カメラで夜間に時々確認されたほか、夜間の現地調査でも観測されました。また、6日および27日の現地調査では、微量の火山灰を確認しました。

10日～14日にかけて振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内では火山灰や火山ガスの噴出が見られることから、火口内及びその周辺では火山灰の噴出等に警戒が必要です。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

### 雲仙岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

### 霧島山(新燃岳) [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内及び火口の外の西側斜面では引き続き噴気がみられており、火口内に影響する程度の噴出現象が発生する可能性がありますので、火山灰の噴出等に警戒が必要です。

### 霧島山(御鉢) [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

### 桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

昭和火口では、1月28日に噴火<sup>1)</sup>が2回発生しました。また、南岳山頂火口では、噴火が2回発生し、その内1月15日の噴火は、爆発的噴火<sup>2)</sup>でした。

その後、2月1日11時から2日7時にかけて昭和火口で爆発的噴火が8回発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が5合目(昭和火口より500mから800m)まで達しました。

このことから、噴火活動は活発化する恐れがあると判断し、2月2日09時30分に噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から3(入山規制)に引き上げました。

南岳山頂火口及び昭和火口から2km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石と火砕流に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)、降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

### 薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

噴煙活動はやや活発で、火山性地震回数はやや多い状態が続いています。

今後、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。

### 口永良部島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

GPS連続観測では、2008年9月以降、新岳火口浅部の膨張を示す変化が観測されています。また、同時期から噴気や火山ガスの放出量が増加するなど、火山活動が高まった状態が続いています。

口永良部島では火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の発生が予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

### 諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

爆発的噴火は2回発生したほか、小規模な噴火も時々発生しました。諏訪之瀬島ではこれまでも長期にわたり噴火を繰り返しています。

今後、御岳<sup>おたけ</sup>火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。